

教えの庭から

挿絵は、認知心理学におけるアヒルとウサギの隠し絵で、心理学者ジャストロウのものを参考に描いてもらいました。この図は、アヒルしか知らない人にはアヒルと見え、ウサギしか知らない人には、ウサギと見え、両方を知っている人には、アヒルと見えたりウサギと見えたりする不思議な図です。あるときまで「アヒルとして」見えていたものが、突然に「ウサギとして」見えだすのです。いままでアヒルと見えていたものが徐々にウサギとして見えだすのではなく、アヒルが見える世界とウサギが見える世界は連続していません。

昔の人は、地球は宇宙の中心で静止しており、太陽や月を含むすべての天体が地球の周りを公転しているという「天動説」を信じて

意識を変革する

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

いました。ところが、宇宙動説」という概念が、天体の中心を「太陽」とし、地球を含むほかの惑星が、太陽の周りを回っているという「地動説」をコペルニクスが唱え、現在は、これが受け入れられています。ではありませんが、まさに



挿絵 平尾恵郷

「天動説」から「地動説」へのコペルニクスの転回、は、まさに科学革命といえるものでした。天動説の概念を挿絵の「アヒル」だとなれば、実は、それは根拠のないものであって、「地

えられて、現在も日課で読み続けています。心経に対する意識ががらりと変わった体験がありました。それは、20代の頃、大きな挫折体験をして苦しんでいる時期に、母の勧めで参加した一畑寺での安居会(禅の研修会)で、坐禅中に不思議な体験をしました。自分の周りにお経の言葉が書いてあって、それが私を守っていてくれるような意識状態になったことがあります。これは、小泉八雲の怪談「耳なし芳一」の中で、芳一が心経を体中に書いてもらっているような感じでした。この体験により、禅をより深く学ぼうと思うと同時に心経にはなにか大きな力があると感ずるようになりました。

その後、心経に関する文献を調べて、結論の部分に「心経は、『真言』(大いなる神秘的な言葉)であり、大いなる光の『真言』であるので、一切の苦を取り除く」とあることを知りまし

意識の転換をする自己革命ではないだろうかと考えます。意識の転換によって、深く信仰の中に入っていくのではないのでしょうか。般若心経(以下、心経と略)は、小学生の頃から教

た。だから、心経は、「真言」であると思うようになった。心経を唱えるとき、心身の病や迷いから解き放たれて、大いなる悟りが得られると言われています。

心経についてのことでは、意識を変革されると、仏教について、より深く追求してゆきたいという意識になりました。その後、禅宗の藤井虎山老師(元仏通寺派管長)、浄土宗の山本空外上人(広島大学名誉教授)、河波定昌上人(東洋大学名誉教授)などとのありがたいご縁を頂きました。

この老師や上人のお話を何度も聞き、その著書を繰り返し読み、その結果、心経についての意識が改革されてきました。お釈迦様は、「縁起」を説かれ、龍樹(2世紀のインド仏教の僧)は、「縁起」とは「空だ」といいますが、「空」とは「おかげさま」であると空外上人は言われ、とてもありがた